

平成 25 年度 木育マイスター育成研修 委託業務

業 務 実 施 報 告 書

も く じ

● 事業概要 -----	2
● 事業スケジュール -----	3
● プログラムの作成	
プログラム作成 -----	4
研修日程の設定 -----	4
現地情報の収集 -----	5
受講生の募集と選定方法 -----	5
● 研修会の実施	
第 1 回 -----	6
第 2 回 -----	9
● O J T の実施 -----	11
● まとめ -----	16
● 添付資料 -----	17
① 広報チラシ	
② OJT 自己評価シート	
③ アンケート集計	



## 事業概要

当事業は、「木育」の理念を十分に理解し、民間における「木育」活動の企画立案や全体的なコーディネートができ、地域において指導的な役割を果たすことができる人材を育成することを目的に、木育マイスター育成研修を行うものである。

木育マイスター育成研修のカリキュラムは6つに分かれており、①木育の理念、②森づくりの仕事や樹木などの基礎知識、③暮らしと産業の関わり、④人の成長過程における木の存在や癒し効果、⑤木育プログラムにおける伝える技術、⑥木育プログラムの考え方と企画のやり方である。

道央地域を会場とし、1泊2日の講座を前半（9月末）と後半（10月末）の2回行った。OJTは、10月から11月中旬に行った。

当カリキュラムを修了すると、「木育マイスター」として北海道に認定され、木育に関する活動機会には指導者として活躍することが期待されている。平成25年度の第4期生として19名の木育マイスターが誕生した。

### ・本事業における業務

#### 1)受講者の募集

道内の木育の実践者や木育関連団体への広報を行う。メディアリリースなどで広く一般からも参加者を募る。

#### 2)研修会の開催

「木育達人入門」をテキストとし、室内講義と実習においてテキスト内容を全て履修できるカリキュラム設定を行う。

第1回目と第2回目の2回に分けて、研修会を行う。

#### 3)OJT研修の実施

室内講義や実習で習得した内容を実践するためのOJTを実施する。



## 事業スケジュール

---

### 事業スケジュール

前年までの講座の反省点を踏まえながら、よりよい研修にするよう講師陣の意見も取り入れて、カリキュラムの詳細を再検討した。会場となる場所の下見と関係者との打ち合わせを綿密に行い、その地域の特徴を活用した研修プログラムづくりを行った。

6月中旬～7月下旬	講師陣と打合せ、研修日程、会場等決定、広報準備
8月8日	受講生募集の広報開始
8月30日	応募締切・選定
7月中旬～9月中旬	第1回講座関係団体と打合せ、OJT受入れ団体との調整
9月29日-30日	第1回講座
9月中旬～10月下旬	第2回講座関係団体・講師と打合せ、OJT受入れ団体との調整
10月6日	OJT第1回目実施
10月27日-28日	第2回講座
11月12日	OJT最終回実施





## プログラムの作成

### プログラム作成

テキスト「木育達人入門」に基づき、プログラムはテキストの章立てに合わせ、第1章から第6章の内容を2日間×2回の全4日間と、OJTを一回以上受講することとした。当プログラムは、体験学習法を取り入れ、①まずはやってみる、②なぜそうなのかを考える、③次にどうするかを考えるという学びの循環過程を意識した。

昨年度研修のアンケート結果などを踏まえ、よりわかりやすく実践的なカリキュラムになるよう、講師や内容の検討を行い、プログラムを作成した。

### 研修日程の設定

野外でも活動しやすい、秋の季節に研修を行うこととし、日程を設定した。平日勤務の方も土日勤務の方も参加しやすいよう、日曜・月曜の研修とした。

#### ◆第1回目 2013/9/29(日)～30(月)

【9/29】

時間	章	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
9:30		開会式				美唄市 林業試験場
10:00～ 12:30	1章	木育の理念	煙山 泰子	木育が生まれた背景と 現在の位置づけ	2.5H	
12:30		昼食				
13:30～ 15:00	5章1	木育はつながりのキーワード ～プログラムの伝え方～	宮本 英樹	体験から概念へと つなげていく学習法	1.5H	
15:00～ 17:00	4章	木と生きる ～人の成長と木の関係～	大和 正枝	子供の発達の特性と 過程、人を癒す木の働き	2H	

【9/30】

時間	章	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
9:00～ 11:30	2章	木とふれあい、木に学ぶ	菊地 伸一 原 秀穂	森林の定義、 北海道の森林の特徴	2.5H	美唄市 林業試験場
11:30		昼食				
12:30～ 14:00	2章	木とふれあい、木に学ぶ	原 秀穂	木材の構造と性質	1.5H	堀川林業 飛騨産業
14:00～ 17:30	3章	木と生きる ～暮らしと産業～	堀川林業 飛騨産業	林業・木材産業の今	3.5H	

◆第2回目 2013/10/27(日)～28(月)

【10/27】

時間	章	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
13:00～ 15:15	3章	木と生きる ～暮らしと産業～	西川 栄明	生活の中の木、 木の道具	2.25 H	道民の森 神居尻地区
15:15～ 16:45	2章	木とふれあい、木に学ぶ	煙山 泰子	森づくりの仕事、 北海道の主要樹種	1.5H	
16:45～ 18:00	3章	木と生きる ～暮らしと産業～	煙山 泰子	生活の中の木 木工体験	1.25 H	

【10/28】

時間	章	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
9:00～ 11:00	5章 2-3	木育はつながりのキーワード ～プログラムの伝え方～	宮本 英樹	伝える技術	2H	道民の森 神居尻地区
11:00～ 12:00	6章	木育はつながりのキーワード ～プログラムの作り方～	宮本 英樹	プログラム作りの基礎	1H	
12:00		昼食				
13:00～ 17:00	6章	木育はつながりのキーワード ～プログラムの作り方～	宮本 英樹	プログラム作りの基礎、 模擬演習	4H	

### 現地情報の収集

現地情報の収集は当法人のネットワークのほか、木育ファミリーのネットワークや、平成22～24年度研修の受講生である木育マイスターに協力してもらい、行った。第1回の研修会場である美唄市では地方独立行政法人北海道立総合研究機構林業試験場にご協力いただき、研修会場や周囲の森、見学先の工場について情報を共有し、研修内容についての打合せを行った。第2回の研修会場である道民の森神居尻地区では、研修会場や周辺の森について、下見、打合せを行い、研修内容を決定した。

下見の際、現地の自然資源、文化資源、人的資源を把握し、研修会を実施する際の素材の整理と危険要因の有無を確認した。

### 受講生の募集と選定方法

受講生の募集方法は、広く一般に公募した。北海道新聞へのメディアリリース、北海道と当法人のHPへの掲載、北海道内の木育関係施設への募集チラシの配布を行った。また、「木育ファミリーメーリングリスト」や「わくわく木育通信」など木育関係者に対しての情報提供を行った。定員20名に対して42名の応募があり、抽選により20名の受講生を決定した。

## 研修会の実施

第1回目 平成25年9月29日 9月30日

◆1日目 (9/29) 美唄市林業試験場 講堂 受講者数：20名

9:30 開会式

10:00 木育の理念 (KEM工房 煙山泰子)

木育の理念を理解することを目的に、木育や木育マイスターの目指すものについて学んだ。アイスブレイクを兼ねて、参加者が各自の木の思い出の品について発表し、自分と木のつながりを再認識した。

木で作られた様々な道具・おもちゃや、「木育の玉手箱」を使い、五感の重要性を体験し、木育のイメージを広げた。また、様々な木育事例を紹介し、木育の幅広さを認識した。



13:30 体験学習の理解

(NPO 法人ねおす 宮本英樹)

森林と木材がメビウスの輪のように表裏一体の存在であることや、木育マイスターはそれらをつなぐ役割をすることを確認した。

また、体験を通して概念を理解する、「体験学習」の教育手法を学ぶことを目的に、野外で受講生たちが実際に体験学習のアクティビティを体験し、アイスブレイクの大切さ、手法を学んだ。



15:00 木と生きる～人の成長と木の関係～

(木育マイスター1期生 大和正枝)

「子どもの発達の特徴と過程」について、子どもたちの発達を促すために多様な自然の中で育つことの大切さについての話があった。

また、子どもがその発達過程に合ったおもちゃで遊ぶことで、より発達を促せることについて学んだ。実際にいろんな国のおもちゃで受講生が遊ぶことで、おもちゃの奥深さを知る一端となった。



17:00 終了

◆2日目(9/30)美唄市林業試験場 講堂・見本林、堀川林業株式会社、飛騨産業株式会社  
受講者数：19名

9:00 木とふれあい、木に学ぶ

(北海道立総合研究機構森林研究本部 菊地伸一)

北海道の主要樹種の性質、針葉樹・広葉樹の違いなど、今後受講生が木育マイスターとして活動していくのに必要な知識の、基礎を学んだ。

また、北海道の各林業試験場、林産試験場の取り組みについて説明があり、様々な研究・開発がなされていることを知った。



10:00 木とふれあい、木に学ぶ

(北海道立総合研究機構林業試験場 原秀穂)

北海道の森林の特徴、天然林・人工林について、また、森づくりのための様々な仕事について、スライドを見ながら説明があった。面積の7割が森林である北海道で木育を行うことの意義を再認識した。



11:30 昼食

12:30 木とふれあい、木に学ぶ

(北海道立総合研究機構林業試験場 原秀穂)

林業試験場の見本林で、実際に樹木を見て、触ってと、五感で感じながらいろんな樹種の特徴を学んだ。

また、林業試験場で開発された、グイマツとカラマツをかけあわせてつくられた、成長が早く、強度もあり、炭素固定量も多いという「クリーンラーチ」を見学した。





#### 14:30 木と生きる～暮らしと産業～

(堀川林業株式会社)

森の木が木材になる過程を理解するために、三笠市の堀川林業株式会社で、切り出した丸太の皮をむき、板にしていく製材の現場を見学した。

堀川林業では製材のほか、造林の仕事や、北海道産広葉樹にこだわったフローリング板などの製造、また、ツリーイングなど森をソフト面で活用する活動も行っているという幅広い話を聞き、林業の可能性を感じた。



#### 16:00 木と生きる～暮らしと産業～

(飛騨産業株式会社)

製材された材が、加工され、私たちの身の回りの道具になる過程を見学するため、三笠市の飛騨産業株式会社に伺った。

木を曲げてイスの背などを作る、曲げの技術や、家具ができていく工程を見学した。また、ショールームでは、昔ながらのカバを使った重厚な家具のほか、スギを圧縮した材を使った家具、カラマツ材の家具など、歴史あるものから、斬新な取り組みまで、様々な家具を見学し、家具産業の現在を学んだ。



17:30 終了

## 第2回目 平成 25 年 10 月 27 日 10 月 28 日

◆1 日目 (10/27) 道民の森神居尻地区 森林学習センター 受講者数：18 名

13:00 木と生きる～暮らしと産業～

(ノンフィクションライター 西川栄明)

木材製品の歴史や特徴について理解することを目的に、木の道具、木の文化や習慣などの歴史的背景についてスライドを見ながら講義を受けた。昔から、木の道具を作る際、材料となる木が材質によって使い分けられてきたことを学んだ。

また、木の道具の実物や木材見本などを展示し、それらに実際に触れることで、より実感を伴った学びとなった。



15:15 木とふれあい、木に学ぶ

木と生きる～暮らしと産業～

(KEM工房 煙山泰子)

森にある木が自分たちの身の回りの道具になる事、緑と茶色の木育が繋がっていることを体感するため、木工体験を行った。森に行き何種類かの木を切り、それを使って生木のフォークを作り、すぐに試してみることで、森の木が道具になっていく過程を実感できた。

また、生木を人力で加工するグリーンウッドワークを体験し、生木の削りやすさ、瑞々しさといった感覚を味わい、一般的な乾燥材を使う木工との違いを学んだ。



18:00 終了

◆2日目(10/28) 道民の森神居尻地区 森林学習センター 受講者数：19名

9:00 木育はつながりのキーワード～プログラムの  
伝え方～(NPO 法人ねおす 宮本英樹)

より効果的な伝え方や指導法を学ぶための講義を受けた。受講生一人一人のOJTの体験を全体で共有し、共通する重要なキーワードに着目したことで、個人の体験を踏まえた学びの促進ができた。

各自が受講したOJTで、各アクティビティが何を目的として提供されているのか、全体のプログラムの流れはどのように考えられているのかなどを、プログラムを効果的に伝えるために必要なものを例示しながらふりかえりを行い、様々な伝える手法を学んだ。



12:00 昼食

13:00 木育はつながりのキーワード～プログラムの  
作り方～(NPO 法人ねおす 宮本英樹)

木育プログラムを作成できるようになることを目的に、木育プログラムを構成する活動とその構成に関する知識、企画づくりの基礎(資源調査、対象者分析、コンセプトづくり)を学んだ。

その後、受講生自身が現在行っている活動等に関連して、取り組みたいテーマを提案してもらい、そのテーマについてグループワークにより4つのプログラムの企画・発表をした。

最後は各自の「木育宣言」をひとりひとりが読み上げ、全4日間の研修のまとめとした。



17:00 終了

## OJTの実施

OJTは第1回研修と第2回研修の間に実施することで、その経験を、後半の第2回研修に活かせるようにした。道内全域（道央地域、道北地域、十勝地域、道東地域、道南地域）で計14回のOJTを実施した。OJT実施に当たっては、受け入れ団体と綿密な調整を行い、研修生の学びに重点を置いたサポートを依頼した。

OJT当日は、プログラムの事前準備や打合せ、振り返りまで参加してもらい、イベントを運営するマネジメント手法や実際のプログラム手法、注意点などを体験的に学んだ。OJT終了後は、研修生に自己評価シートに自分の役割、評価・反省点、感想などを記入してもらうことで、OJTの内容を振り返り、今後の自身の活動に活かせるようにした。

番号	日程	講師	場所	内容	受講人数 (延べ 人数)
1	10/6(日)	ねおす	札幌市中央区	未就学児の親子対象の木育プログラムの運営補助をする	1
2	10/19 (土)	煙山、 木育マイスター	札幌市(旧道庁 赤れんが前)	「道民森づくりネットワークの集い」で木育プログラムの運営補助をする	2
3	10/26 (土)	ねおす	苫小牧市	子ども・大人向けの木育プログラム(森づくり)の運営補助をする	2
4	11/3(日)	ねおす	札幌市中央区	子ども・大人向けの木育プログラムの運営補助をする	1
5	毎週火・ 木曜日	ねおす	札幌市 (円山動物園)	小学生のアフタースクールで木育プログラムの運営補助をする	4
6	10/20 (日)	木育マイスター	東川町(キトウシ森 林公園)	木育マイスターが主宰する木育イベント(木育フェスタ)の企画・運営の補助をする	1
7	10/8(火)	木育マイスター (日月)	帯広市(帯広の森・ はぐくむ)	小学生を対象とした、間伐体験の補助を行う	1
8	10/13 (日)	木育マイスター (戸川)	帯広市	「岩内仙峡もみじ祭」で、木育体験プログラムの補助を行う	1
9	10/20 (日)	木育マイスター (日月)	帯広市(帯広の森・ はぐくむ)	「はぐくむ秋まつり」で、木育体験プログラムの補助を行う	2
10	10/9(水)	煙山	津別町	津別町の小学校で木育プログラムの補助を行う	2
11	10/12 (土)	木育マイスター (萩原)	弟子屈町	小学生対象の木育プログラムで補助をする	1



番号	日程	講師	場所	内容	受講人数 (延べ 人数)
12	10/6(日)	木育マスター	七飯町(大沼ふるさとの森自然学校)	木育マスターが主宰する木育イベント(木育フェスタ)の企画・運営の補助をする	3
13	10/19 (土)	木育マスター (丹羽)	七飯町 (大沼森林公園)	大沼森林公園の「秋の文化祭」で、子ども向けの木工プログラムの運営補助をする	1
14	11/12 (火)	木育マスター (鈴木正)	森町 (株式会社ハルキ)	幼稚園児を対象とした工場見学プログラムの補助をする	1

1. 10/6 (日) 8:30~16:00

講師：NPO 法人ねおす 富田桂太  
 場所：札幌市旭山記念公園  
 参加者：子ども 10 名、大人 9 名  
 OJT 受講者：武岡 真吾  
 内容：未就学児の親子対象のプログラム  
 (もりのようちえん)



2. 10/19 (土) 8:30~16:00

講師：KEM 工房 煙山泰子、木育マスター  
 場所：札幌市 旧道庁赤レンガ前  
 参加者：子ども約 80 名・大人約 60 名  
 OJT 受講者：市野美佳、高木貴間  
 内容：子ども～大人対象のプログラム  
 (マイはしづくり、グリーンウッドワーク体験)



3. 10/26 (土) 10:00~15:00

講師：NPO 法人ねおす 上田融、山田由美子  
 場所：苫小牧市 苫東・和みの森  
 参加者：子ども 18 名、大人 15 名  
 OJT 受講者：上道和恵、渡邊信也  
 内容：子ども～大人対象のプログラム  
 (森林セルフケア、もりのようちえん  
 ほか)



4. 11/3 (日) 8:30~17:00

講師：NPO 法人ねおす 高野克也、富田桂太

場所：札幌市 旭山記念公園

参加者：子ども 14 名、大人 18 名

OJT 受講者：早坂美千代

内容：子ども～大人対象のプログラム  
(たき火でおやつづくりほか)



5. 毎週火・木曜日 (10/8、10/10、10/15、10/22、10/24)

14:00~18:30

講師：NPO 法人ねおす 高野克也、富田桂太

場所：札幌市 円山動物園

参加者：子ども約 10 名

OJT 受講者：市野美佳、木村雅代、高橋尚基、  
藤原仁

内容：子ども対象のプログラム  
(アフタースクールでの木育  
プログラム)



6. 10/20 (日) 9:00~16:00

講師：木育マイスター

場所：東川町 キトウシ森林公園

参加者：子ども、大人あわせて約 200 名

OJT 受講者：長多邦裕

内容：子ども～大人対象のプログラム  
(道北木育フェスタ)



7. 10/8 (火) 9:00~12:00

講師：木育マイスター 日月伸

場所：帯広市 帯広の森はぐく一む

参加者：子ども 70 名

OJT 受講者：中村信哉

内容：小学生対象のプログラム  
(枝打ち、たき火パン焼き)





8. 10/13 (日) 10:00~14:00

講師：木育マイスター 戸川久美子  
場所：帯広市 岩内仙峡  
参加者：子ども 80 名、大人 50 名程度  
OJT 受講者：有岡繁  
内容：子ども～大人対象のプログラム  
(お祭りでの木育ブース出展)



9. 10/20 (日) 10:00~15:00

講師：木育マイスター 日月伸  
場所：帯広市 帯広の森はぐくむ  
参加者：子ども 50 名、大人 40 名  
OJT 受講者：天野裕幸、有岡繁  
内容：子ども～大人対象のプログラム  
(木のカスタネット作り)



10. 10/9 (水) 9:30~15:30

講師：KEM 工房 煙山泰子  
場所：津別町内 小学校  
参加者：子ども 38 名  
OJT 受講者：上野真司、福士大輔  
内容：小学生対象のプログラム  
(木育教室)



11. 10/12 (土) 8:30~16:00

講師：木育マイスター 萩原寛暢  
場所：弟子屈町 林業多目的センターほか  
参加者：子ども 20 名  
OJT 受講者：高橋雄一  
内容：小学生対象のプログラム  
(木育教室)



12. 10/6 (日) 8:30~17:00

講師：木育マイスター

場所：七飯町 流山温泉

参加者：子ども、大人あわせて約 400 名

OJT 受講者：澤村邦史、遊佐智子、吉田粂昭

内容：子ども～大人対象のプログラム  
(道南木育フェスタ)



13. 10/19 (土) 10:00~14:30

講師：木育マイスター 丹羽敬介

場所：七飯町 大沼国際セミナーハウス

参加者：子ども 20 名、大人 30~40 名

OJT 受講者：遊佐智子

内容：子ども対象のプログラム  
(木工教室)



14. 11/12 (火) 10:00~12:00

講師：木育マイスター 鈴木正樹

場所：森町 (株) ハルキ

参加者：子ども 40 名

OJT 受講者：吉田粂昭

内容：幼稚園児対象のプログラム  
(工場見学、カホン作り)





## まとめ

---

### ・受講人数について

平成 25 年度木育マイスター育成研修は、定員 20 名のところ、倍を超える 42 名の申し込みがあったため、抽選で 20 名に絞り受講者を決定した。途中、辞退者が 1 名出たため、最終的に全ての研修カリキュラムを終了した人数は 19 名となった。

### ・会場について

今年度は、札幌近郊の美唄市、当別町で実施した。全道各地から参加しやすいよう、道央地域での開催としたが、道民の森神居尻地区は札幌からさらに遠いため、遠方の受講生からは特に、会場が遠かったとの声があがった。次回は、より遠方からも来やすい会場を選定する必要があると思われる。

### ・研修時期について

講座は、秋（第 1 回目が 9 月、第 2 回目が 10 月）に実施した。O J T は昨年同様 1 回目と 2 回目の間（9 月～10 月）に行うことを基本とし、O J T で経験したことを第 2 回目研修で活かせるようにしたことで、第 2 回目研修の際に受講生の理解がより深まったと思われる。

### ・カリキュラム・スケジュールについて

研修終了後に受講生から取ったアンケートによると、カリキュラムについては概ね満足を得られている。ただ、木育マイスターにとって不可欠な、「森林と木材がメビウスの輪のような関係である」という概念を理解してもらえよう、様々な分野の講義・実習・見学を盛り込んでいるため、一つ一つの分野にかける時間がどうしても短くなり、講義時間が「短かった」と回答した人も多かった。

また、平日勤務・休日勤務のどちらの人も参加しやすいよう、日曜・月曜での開催としているが、土曜・日曜での開催を望む声もあった。

### ・今後の木育について

平成 22 年度から実施されている本研修であるが、22 年度は 38 名、23 年度は 37 名、24 年度は 39 名、25 年度は 19 名と、合計 133 名の木育マイスターが誕生した。木育マイスター 1～3 期生は、木育マイスターメーリングリスト内で情報交換、意見交換を行うなどして、交流が進んでいる。また、今年度研修の O J T の受入先や、講師となっていただいたり、各人の地域・会社などで木育プログラムを行ったり、各地域のマイスターが集まって木育フェスタを実施したりと、それぞれの地域・立場で活躍中である。今年度は木育マイスター道南支部が設立されたこともあり、北海道の木育の動きはより活発になっていくことが期待される。

今後、さらに北海道の木育の普及を推進していくためには、この 4 年間の研修で誕生した木育マイスター同士のネットワークをより強固なものとし、協力しあって木育の普及に取り組んでいくことが必要である。また、木育マイスターのフォローアップも重要である。

今年度の研修では定員の 2 倍を超える申し込みがあり、この研修の受講希望者はまだまだいると思われる。北海道の木育を進めていくためにも、本研修は継続して行われる必要があると考える。